

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

助け合い

船橋市立小室中学校

第三学年 森山 芽依

私の父は消防士だ。以前「お父さんのお給料はみんなが払う税金から頂いているんだよ」と教えてくれたことがある。「だから、みんなの身に何かあったら必死で助けに行かなければならないんだ、仕事中は自分が食事中だろうが仮眠中だろうが入浴中だろうが出動要請があつたらすべてをすぐに中断してすぐに助けに行く、全力で救助するんだ。」続けて「でも、お父さんも税金は払っていてそれで助けられる時もあるし、税金は助け合いだね。」と言っていた。当時まだ小学生だった私は「ふーん。」とだけ返事をして何とも思わなかったような記憶がある。中学生になり税金について知ることができた今「税金ってこういうことにも使われているんだ。」とあの時父の言っていたことが理解でき、もちろん消防士としての仕事の使命というものもあるだろうがみんなの税金からお給料を頂いているわけだから

「みんなに何かあった時には必死で助けに行くんだ」と言っていた意味が分かった。これが私の「税金の使い道」を一番身近で理解できた話だ。中学生になった今また再度聞いてみると父は、例えば救急車一回出動させることで本当は約四万五千円かかるんだよと言っていた。夜中の出動はもつとかかると思うよと話していた。人件費や燃料その他にかかる費用だと。それが、税金によって賄われているとのこと。四万五千円って、高いなと感じた。自分ですぐに払えるかなと考えた時に簡単には払えない金額だなと感じた。ただ、私たちは税金を払っているから万が一の時にはその場でその金額を払わず助けてもらえるこれはほんの一例であって、このことに関わらず私たちが生活している中で、税金によって助けられていることはたくさんあるはずだ。税金について調べていくと、たしかに私た

ちは毎日のように税金に支えられていることに気付いた。学校で教育を受けたり、医療の面など安心な暮らしができたリゴミの処理など、安全で健康に暮らせるのは、みんなが支え合って支払っている税金によって成り立っていることに気付く。それを辿ると結局は、人と人が助け合っていることにもつながっているのだと私は思う。何とも思わず生活していたが、税金の仕組みや使い道を知ること

で税金って有難いと思えた。

税金の使い道について知り、理解することは本当に重要だと思う。税金について知ることができると自分たちの暮らしを良くするためにという意識が生まれ、一人ひとりが協力して支払って長い先の未来までの暮らしを支えていくことにつながると考えられるからだ。今回改めて税金について知り、税金は自分のためにもなっているし、誰かのためにもなっていることを知った。だから、将来自分が稼いだお金から納税することになった際には、父の言っていた「助け合い」の気持ちで常に心に留め、しっかりと払えるような大人になりたい。